

亞使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。

※ 聖人に依頼する句（第一回）

永

使徒と等しく同座なる者、忠実にして神智なるハリストスの役者、聖なる神に選ばれたる笛、ハリストスの愛に満ちたる器、我が国の光耀者、亞使徒大主教聖ニコライよ、爾の牧群の為、及び全世界の為に、生命を保つ聖三者に祈り給え。

トロパリ（第四調）

輔 言

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。(三次)
(句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐は世世にあればなり。
(句) 彼等我を圍み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。
(句) 我死せず、猶生きて主の行う所を傳えん。
(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

輔

君や、祝讃せよ。
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。
アミン。
天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸
より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
主は神なり

※(モーベンには様々な形式があるので、後述の「諸聖人に依頼する祈禱」形式を用いるも可。但し、ここでは全国公会時に用いられる形式にて掲載する。)

聖徒福音に依頼する祈禱

詠 輔 詠 輔 詠 輔 詠 輔 詠 輔 詠
アミン。
およそ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
かみそ呼びある者は、主を讃め揚げよ。
およそ其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。
およそ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
およそ其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。
凡そ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
主を讃め揚げよ。
我等に聖福音經を聴くを賜うを主・神に祈らん。
主憐めよ。
(三次)

凡そ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
凡そ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
凡そ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
凡そ呼吸ある者は、主を讃め揚げよ。
我等に聖福音經を聴くを賜うを主・神に祈らん。

詠	誦	詠	輔	詠	司	詠	詠
聖人の死は、主の目の前に貴し。	聖人の死は、主の目の前に貴し。	我何を以て主の我に施しあ悉くの恩に報いん。	睿智。	亞使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。	今も何時も世世に、アミン。	光榮は父と子と聖神に帰す、	亞使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。
聖人の死は、主の目の前に貴し。	聖人の死は、主の目の前に貴し。	我何を以て主の我に施しあ悉くの恩に報いん。	睿智。	亞使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。	今も何時も世世に、アミン。	光榮は父と子と聖神に帰す、	亞使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。
聖人の死は、主の目の前に貴し。	聖人の死は、主の目の前に貴し。	我何を以て主の我に施しあ悉くの恩に報いん。	睿智。	亞使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。	今も何時も世世に、アミン。	光榮は父と子と聖神に帰す、	亞使徒日本の大主教聖ニコライや、我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。我等の為に神に祈り給え。

睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし。
衆人に平安。
爾の神にも。

マトフェイ伝の聖福音經の読み。

主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。

謹みて聴くべし。

福

(マトフェイ伝 七・二四一八・四)

「主曰えり、凡そ我が此の言を聞きて之を行ふ者は、我之を磐の上に其家を建てたる智き人に譬えん、雨降り、河溢れ、風吹きて其家を撞ちたれども、倒れざりき、磐の上に基けたればなり。凡そ我が此の言を聞きて之を行わざる者は、沙の上に其家を建てたる愚なる人に譬えられん、雨降り、河溢れ、風吹きて其家を衝きたれば、倒れたり、且其倒は大なりき。イイスス此等の言を竟えし時、民其訓を奇とせり、蓋彼等を教えしこと権ある者の若し、学士及びフアリセイ等の如きに非ず。彼山を下りしに、衆くの民彼に隨えり。視よ、癩病の者來り

詠

て、彼を挙げて曰えり、主よ、爾若し望まば、我を潔むるを能す。イイスス手を伸べて、之に触れて曰えり、我望む、潔まれ、其癩病直に潔まり。イイスス之に謂う、慎みて人に告ぐる勿れ、乃往きて、己を司祭に示せ、且モイセイの命ぜし禮物を獻じて、彼等に證を為せ。」

主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。

※ 聖人に依頼する句（第二回）

輔
主よ、今此處に立ちて祈る爾の諸僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、
壯健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳（いくとせ）にも護り給え。
幾歳も。（三次）

幾
二
二
歲
も

ハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亞使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

詠司ヘルワイムより尊くセラファイムに並びなく榮え、
し、実の生神女たる爾を崇め讃む。
ハリストス神我等の侍たのみや、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す。
光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。

重聯棟

なる扶助者、及び我等の靈の代求者に趨り就けばなり。